

# 大ニ日本

シネスコ版

No. 561

高報 296  
新報 224

## 一、華やかに東京オリンピック開幕

全くの“五輪晴れ”で迎えた一九六四年十月十日。第十八回オリンピック東京大会の開幕です。オリンピック発祥の地ギリシャを先頭に大行進がくり展げられました。東西の壁を超えての統一ドイツチーム。アメリカ、ソビエトチームはメダリストを揃ろえて、大デレゲーションを展開、そしてしんがり94番目は日本選手団、アンツーカーを踏みしめて、ここに世界の足並は揃いました。待ちに待った聖火の入場、オリンピックのへら神殿で採火された平和と友好の灯は坂井義則君の右手にシカとかかげられて世紀の式典は最高潮。

速くギリシャの古の神々の火は、世界は一つ、いま赤々と燃えあがりました。

明けて競技第一日目、渋谷公会堂の重量挙げは日本のホープバンタム級一ノ関に期待がかかります。

一ノ関健闘して第三位入賞、銅メダルを獲得、フェーザー級の三宅も大活躍総合で三九七・五キロ世界新記録で優勝。日本初の金メダルです。

こうして、世界の若人によって、各競技場で熱戦がくりひろげられています。

## 現代に生きる

### 一、京の面打ち師

— 京 都 —

無我の境地で面を打つ北沢如意さん。この道、三十年の精魂をこめています。

京都南禅寺の一角に住む北沢さんは今日も、面の素材を求めて市内の材木店へ。素材はヒノキ。輪切りにし、四等分に割ってから原形を作ります。

広い僧房での無心にはじめる面打ち。だが、北沢さんの心をうつ面はなかなか出来ないとか。

今日は、北沢さんのアトリエに若い人々が集まって、面打ち。如意さんの指導のもと熱心に彫る面秀会の人々です、打っては、こわし、また打つ、こうして、快心の作にようやく最後の仕上げをします。

面の左半面はもの憂れ、右半面は明るい顔に仕あげるのだという。

快心の新作をたずさえ、金剛流の家元を訪ね、苦心の作をみせる如意さん。幽玄な能の舞台。この能の心を求めてやまない北沢如意さん。

面打って三十年の心意気が躍如としています。

6/1E

2957

3/8E

製作 (製 作) 中 部 日 本 新 聞 東 京 中 日 新 聞 社  
(配 給) 北 陸 中 日 新 聞 中 日 映 画 社  
中 部 日 本 中 日 映 画 社